

Chromaster

■ 抗真菌剤の分析

近年骨髄・臓器移植の免疫抑制剤による副作用や、癌化学療法・HIV感染などによる免疫低下により、深在性(全身性・内臓性)の感染症が増加しています。そこで、広い抗菌スペクトルを有する抗菌薬が多く開発されています。

中でもアゾール系抗真菌薬は、選択性が高いため、内用や注射剤として広く使用されていますが、肝臓のシトクロームP450で代謝され、多数の薬物相互作用があるために、他の薬剤との併用時には副作用発生を防ぐため、抗菌薬の血中濃度モニタリングの必要性が求められています。

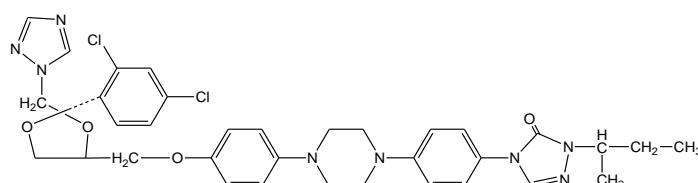
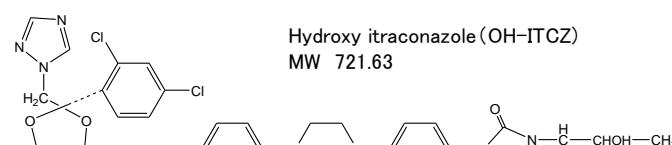
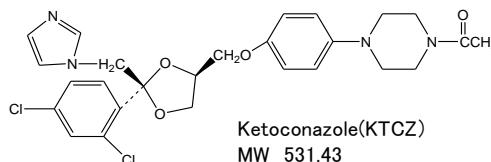
以下にアゾール系抗真菌薬(ケトコナゾール、ヒドロキシトラコナゾール、イトラコナゾール)の分析例についてご紹介します。

◆抗真菌剤の分析◆

試料：アゾール系抗真菌剤(ケトコナゾール、ヒドロキシトラコナゾール、イトラコナゾール)

試料は100 µg/mLになるように、アセトニトリルで調製しました。

■ 標準試料



【装置構成】

Chromaster 5110 ポンプ

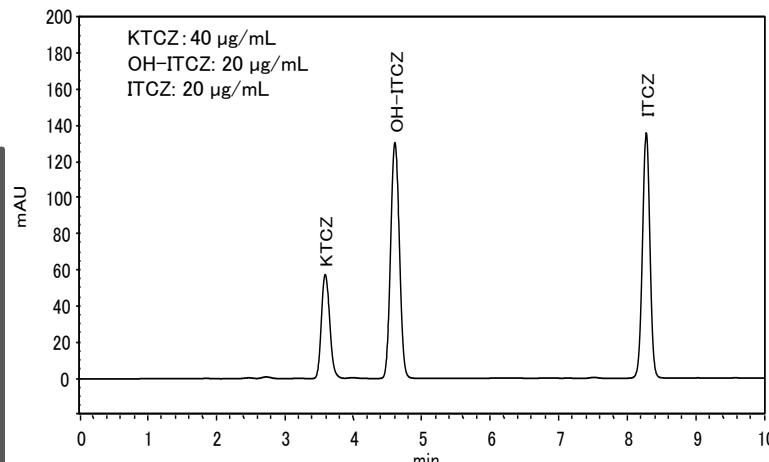
Chromaster 5210 オートサンプラー

Chromaster 5310 カラムオーブン

Chromaster 5410 UV 検出器

Empower2 データ処理システム

■ 標準試料測定結果



注意：本資料に掲載のデータは測定例を示すもので、性能を保証するものではありません。

【分析条件】

| | |
|-------|---|
| カラム | HITACHI LaChrom C18 (3 µm) 4.6 mmI.D. × 100 mm |
| 溶離液 | (A)10 mmol/L KH ₂ PO ₄ · K ₂ HPO ₄ (pH 7.0) /アセトニトリル = 50 / 50 (B)アセトニトリル * Gradient Program: 0分(B)10%→10分(B)50% |
| 流量 | 1.0 mL/min |
| カラム温度 | 40°C |
| 検出 | 260 nm |
| 注入量 | 20 µL |